**大学間・地域連携ワークショップの運営による**
**学生参加型アクティブラーニング**

中京大学　宮田義郎

2016年3月

**私立大学情報教育協会アクティブ・ラーニング対話集会**

---

目的

- 地域とは：日常を地球的視野で
- アクティブラーニング：自ら意味を創り出す学び

実践：World Museum (global)

- World Connection Project
- 椙山WS技法x情報デザイン
- World Peace Song Project

実践：地域連携

- 愛知ギャザリング
- クリエイティブコラボレーション

理論／モデル

- Constructive (Creative) Mindset
- Create/Connect/Open model
- Community of Creators
- Urges (Evolutionary)

---

**問1：「地域（コミュニティー）」の範囲は？**

- 町内
- 県内
- アジア
- 市内
- 国内
- 地球

**問2：自分の日常の行為は世界をより**

- 平和にしている
- 平和でなくしている
- どちらとも言えない

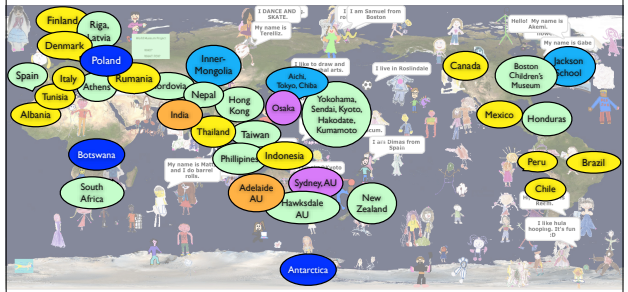
---

## 連携してきたパートナー

- **町内**：藤岡町国際交流委員会
- **市内**：豊田市立西保見小学校、石畳小学校、豊田市青少年センター、豊田市生涯学習センター、とよた科学体験館、トルシーダ（NPO)、手作り遊びを楽しむ会、小原ペーパーアートファンクラブ
- **県内**：愛知県児童総合センター、(株)リニモ、椙山女学園大学、Philosophy3.0、セントラル愛知交響楽団
- **国内**：ベネッセChild Research Net、CANVAS(NPO)、PEG、津田塾大学、同志社女子大学、千葉工業大学、慶応大学、はこだて未来大学、仙台市大野田小学校、岐阜市立加納小学校、文京区湯島小学校、函館青年センター
- **アジア・オセアニア**：香港、台湾、Phillipines, Nepal, Indonesia, Thailand, India, Australia, NewZealand
- **地球**：ヨーロッパ10カ国、南北アメリカ８カ国、アフリカ４カ国、南極

---

## Global Community of World Museum



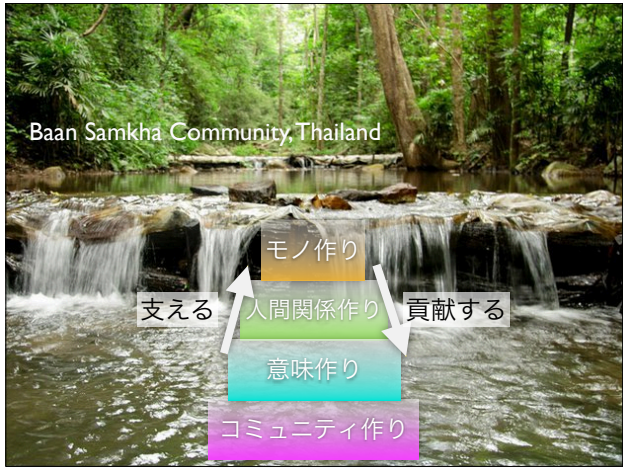

2010　2011　2012　2013　2014　2015

---

# 地域連携とは？

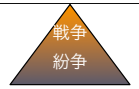
- 地域連携は拡張する
- 地域内連携から地域間連携へ
- 地域コミュニティーとは？
- 例：タイのコミュニティ
- 学びは地域の暮らしに埋め込まれていた

---



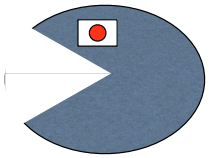

---

飢餓で毎年数百万人以上死亡
太平洋戦争の日本人犠牲者より多い




食料危機　エネルギー利権

日本は5000万人分の食料を廃棄

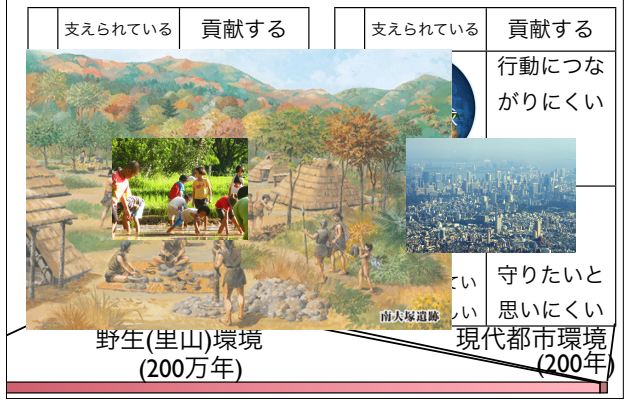


日本は食料の70%近く、石油の99%を世界中から輸入.

## 世界の中の日本

---

## コミュニティーの変遷



# 地域コミュニティーとは？

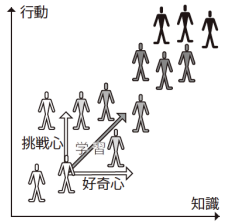
- 生存を支えられている範囲
- 実態は全地球に支えられている
- 意識は自分の活動範囲
- 実態と意識の乖離→様々な地球的問題

# 目的

- 自分の日常の行動を地球的視野でみる
- グローバルに共有できる意味を創り出す

# 野生(里山)環境の学び

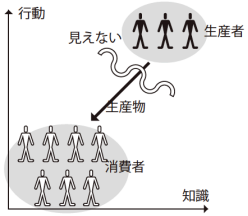
- 暮らしを支える食やエネルギー、道具などを**作り出す過程**が見える。
- 自ら作り出そうとする**挑戦心と好奇心**（学習アージ）の循環によって学びのフローが起こりやすい
- モノ作りを通して**人間関係**が構築される（社会アージ）
- コミュニティが人を支え、そのコミュニティに人が貢献するという**循環**がある。



「創造コミュニティ」モデル

# 現代都市環境の学び

- 暮らしを支える食やエネルギーや道具を作り出す**過程**が見えない。（例：パッケージ化された食事や電子レンジによる調理、エアコンによる冷暖房、など）
- 自ら作り出そうとする**挑戦心や好奇心**が働きにくい。
- 作る人と使う人の、モノ作りを通した**人間関係**が構築されにくい。



「生産者消費者」モデル

# 挑戦心/好奇心の循環を生み出す

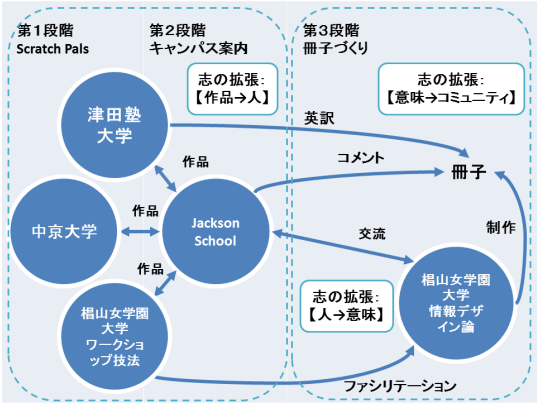
- 作るプロセスが見える
  （しかし）視点がないと見えない
- 参加者（使う人）と企画者（作る人）の境界があいまい
  ⇒参加者が企画者的視点を持ちやすい
- Create/Connect/Open モデル
  ローカルで作った循環をつなげることで、よりグローバルな循環がうまれる

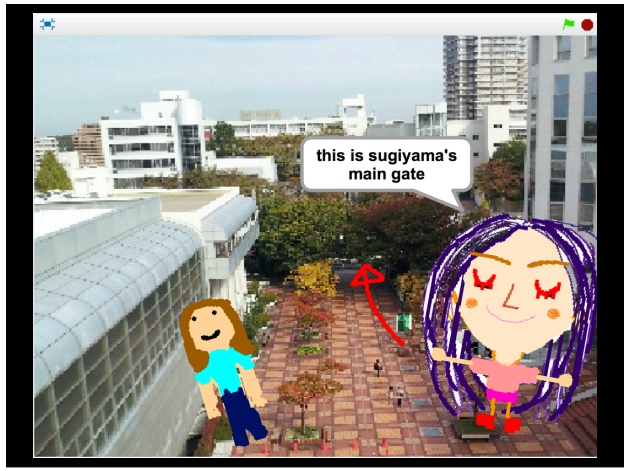
# World Peace Song Project

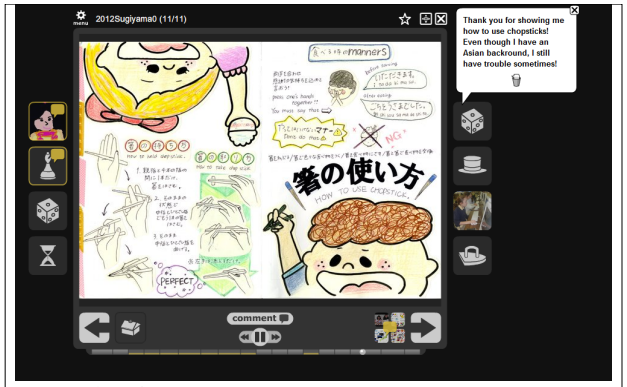
# World Connection Project

- 日常使用している海外産のモノを見つける
- 原産地のパートナーと協力してその生産過程を調べる（アメリカ、オーストラリア、フィリピン、ラトヴィア、スペイン）
- 結果をアニメーション、映像で表現、発信

# 大学間・異文化・異年齢コラボレーション授業








- 日本を紹介する冊子
  →オンラインで海外からコメント・質問

## 異文化・異年齢コラボレーションでの志の拡張

**(1)【作品】**：最初参加者は，その場で自分の興味のある作品を作ることに意識を向ける

**(2)【人間関係】：**作品に対するパートナーからの反応や，パートナーが作る作品に関心を持ち，相手とよい関係を作ろうとする．

**(3)【意味】：**協同制作の中で，パートナーとの考え方や文化の差異を乗り越えて新しい意味を構築しようとする．

**(4)【コミュニティ】**：このような経験をした参加者は，さらにその活動を自ら広げていこうとする．

## 活動を通した学び

- 様々な個人の意見を取り入れることで作品そのものの質が高まる**【作品】**
- 海外のパートナーへ自国の文化を伝えるという目的意識を共有
  →国内のパートナーに対する仲間意識が芽生える**【人間関係】**
- 国内のパートナーと活動を行う中で目的意識が明確化：
  自分たちと海外のパートナーの文化を相互に理解したいという意識が高まった**【意味】**
- 授業内の活動以外での，意識の変化
- 同じコミュニティに属する他者の視点を知る**【コミュニティ】**
  → 普段は深く考えることはない「当然のこと」を深く考える

## 志の拡張を効果的に行うためのコラボレーションデザイン

1）活動の冒頭部分で対話型プロジェクト：
異文化のパートナーと個人でコミュニケーション
→パートナー個人に対する興味**【作品→人】**

2）異文化のパートナーと作品について対話
→パートナーの生活など，異文化に対する興味と関心**【人→意味】**

3）国内のパートナーによる協同制作の活動
同じ文化を様々な視点で共有・議論
→自分たちの文化を俯瞰して捉え，異文化のパートナーにそれを伝えたい
**【意味→コミュニティ】**
パートナーと議論をすることで作品の質が高まる，
作りたいものを作るではなく，伝える相手のことを考えて質を高めるなど


- 宮田、亀井、杉浦 (2013)「ワールドミュージアムー志を広げる多文化異年齢コラボレーション」教育工学会誌

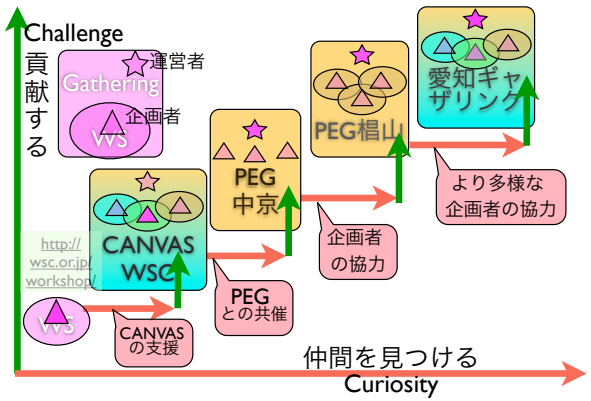
CANVAS
Workshop
Collection

2013には

100WS
10万人参加

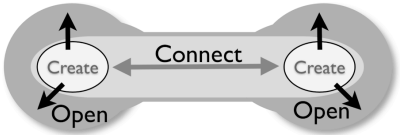
- ワークショップコレクションから、
  地域ギャザリングへ

## 地域連携の例ー運営者の視点から

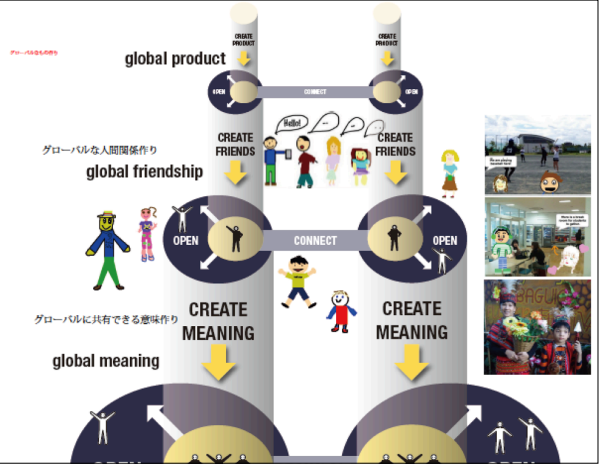



## Create/Connect/Open モデル

ローカルに作る (Create)
つなげる (Connect)
グローバルに広がる (Open)




モノ（作品）作り
人間関係作り
コミュニティー作り



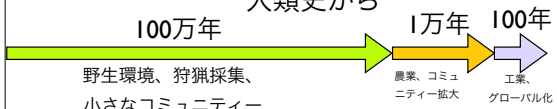

## 地域連携デザイン

- 地域連携から地域間連携へ
- 暮らしに埋め込まれた連携
- モノ作りを基盤とする関係作り
- 過程が見える連携
- Challenge/Curiosityが循環する連携

## 実践例(global×local)

- World Peace Song Project
  世界１５カ国の子供達が自分の言語で平和の歌詞を作り
  録音による地球規模の合唱（Scratch Animation）
- Women of the World in Nagoya -
  ワークショップで地域の人たちが音楽作りに参加
  コンサートでプロフェッショナルと共演（映像）
  世界に配信し、パートナーからのメッセージが会場に流れる

人類史から




感情システム
学習、コミュニティー構築

生存
人間関係
環境

人間関係破壊
環境破壊

## 野生（里山）環境

- アージは野生環境で２００万年以上かけて進化したと考えられる
- 現代都市環境はたかだか２００年
- アージは抑制されていても退化していないだろう⇒活性化できるはず
- 現代都市環境でも、ChallengeとCuriosityの循環が起こすことができる？
- グローバルに拡張することができる？

**From Kent - Osaka, Japan**
I had a very good time singing the world peace music song with friends all over the world!
Not all people in this Planet speak the same language, so it is difficult to communicate each other sometimes. On the other hand, Music is the universal language !! By music, we can share our wishes for world peace to everyone in the world !!

"World peace project" made me have a something "wonder spirits",
what kind of people are singing? How the partners' town look like ? I am curious for the world culture now.

Thanks, Lorraine, for giving me such a wonderful opportunity!
I want to think more about world peace with my friends and my family !

## アージ理論

- 「心を持った機械ーソフトウェアシステムとしての感情」戸田正直(1987)
- 野生合理性
- 野生環境で進化した感情システム
- 様々な状況に対して適応的な行動
- 現代環境には不適応　例：パニック行動

## 社会的アージ

- 感謝アージ：自分に何かしてくれた人に対しお礼をしたい
- 援助アージ：困っている人を助けたい
- （食・エネルギーを支える環境を守りたい）
- 現代の道具や環境は「当面の目的」に集中させ「隠れた目的」を意識させない
- ⇒社会的アージを抑制
- 社会的アージを活かすデザイン原理は？

## 愛知からの提案

- 国内の学校同士のコラボレーション
- 海外のパートナーとのコラボレーション
- コーディネーション・センター
- イベント中心、 地域中心だけでなく、日常的にグローバルな活動を
- 海外展開：香港、バンコク（構成主義の学校）タイ北部（構成主義の村）、シドニー、リガ、デンマーク、マドリード（7〜8月Jose来日）

## 飢餓・紛争の責任は？

- 現代の戦争の主因は**飢餓**と**抑圧**である（Thich Nhat Hanh, 1994）
  - 例：シリア内戦は旱魃による飢饉＋水資源の配分への不満
- 私たちには責任はある？
  - 世界人口の大多数は**食料不足**
    - 日本で廃棄される食品で、全世界の飢餓人口を救える
  - 抑圧・対立の多くは**資源の利権**を巡って起こる
    - 日本のエネルギー・生産は海外の資源に依存している
    - 世界の全人口が日本レベルの生活→地球３個分資源が必要
- 日本人は飢餓と紛争に加担している！？
- 私たちには何ができるのか？

- World Museum Project 報告書 (2011)　あなたの日常を世界とつないでみませんか？
- LEGO Foundation Report (Kolding, 2013)
  A crisis of the creative mindset & cultures
- Expanding Creative Mindsets across Cultures and Generations (Hong Kong, 2013)
  理論／デザインモデル／実践の循環
- ワールドミュージアム一志を広げる多文化異年齢コラボレーション(教育工学会誌, 2013)
  Create/Connect/Open モデル、モノ→人→コミュニティー
- World Museum Collaboration: Theory & Practice (Scratch@Barcelona 2013)
- 進化論的視点からみた日常のモノのデザイン（認知科学会誌 2014）
- ワールドミュージアムとスクラッチ（協同と表現のワークショップ 2014）
- 大学間および地域連携によるワークショップ運営（教育工学会研究会 2014）
- Women of the World in Nagoya (2015) Global Collaboration to make music of peace
- 進化論的視点からの構成主義的デザイン原理の提案（ヒューマンインターフェイスシンポジウム 2015）
- クリエイティブコラボレーション１(2015) 手作りの技とICTのコラボ、地域連携
- 大量生産消費から過程の見えるモノ作りへ（中部経済新聞 2016）